

海外視察研修報告

メキシコ視察研修 食・水・環境



テオティワカン太陽のピラミッドにて

農業委員 酒井 靖一



平成十八年一月二十三日から二十八日にかけて、松本市農業委員二十五名がメキシコ合衆国へ視察研修旅行を行いました。今回の旅での見聞を「食・水・環境」に主観をおき、雑感として記しました。

近年、世界的に人口密度が高い国では、飲料水は食物と同じ値段になると言われているし、食料難と同じく飲料水難が生じている。何故ならば環境破壊が進み、水質汚濁や汚染のためと聞く。メキシコシティも標高二千二百メートルの高地にある首都で、二千万人を越える人口密集度の高い都市となっていて、生活用水の確保は大変ではないかと思えた。

食事はおにぎり大のパンが主食であり、料理は全般的に刺激が強く辛い香辛料を使っていた。現地の人々が主食としているトルティーヤ(トウモロコシ粉の平焼きパン)や、他の食材、料理も特に違和感もなく食した。

屋上にはさまざまなたん水タンクが設置されているが、百リットルが入るかどうかの小さなもので、ポンプアップで貯水は行われているが、使用は自然落下下でのことでした。

現地の人々の飲料水はペットボトル水を飲用している。市街地の商店等では五十リットルほど入る大型の透明容器で



収穫したズッキーニを洗淨液に漬ける

購入しているようで、容器を何段にも積んだ専用の運

搬トラックを見かけた。現地で栽培されている米、ズッキーニ、インゲンを目本人農園経営者の案内で見せてもらった。

米は細長くタイ米に似ており、現地での需要は年々増えているとのことでした。ズッキーニにはコナジラミが全面に付着生息していて、ちよつと触るだけで粉が舞い上がるようでしたし、これが畑全体にあり、また大陸全体に広がっていて、駆除の対策を考えて行かないればと言っていた。

また収穫したものを洗淨液に漬けて荷造りをしているが、水や液はどうなのか?ちよつといかがわしく思えた。

先進的な農業技術を有する日本には、参考となる技術は見当たらず、一方、安い労働力はいくらでも得られるようでした。

メキシコシティの米国大使館前には、人々が長蛇の列を作っている光景がバスの車窓から見られた。現地ガイドの説明では、米国に出稼ぎに行くビザ取得のた

めと言うことでした。メキシコ国内で、この余っている労働力を活用できる社会環境整備が必要ではないかと思う。

最近日本のスーパーにもメキシコ産アスパラ、カボチャ等が目につくようになったが、外国産農産物が急増している中、食の安全は大丈夫なのか?心配である。輸入農畜産物は毎日膨大な量が入ってきており、検査を限無く行うのは不可能であり、言い方が不適切かも知れないが、全くフリーパス状況にあると思える。



雄大なサボテン農園